

## 障害者の自立支援に資する総合的な研究 ～利用者ニーズに応じた制度横断的なケア提供体制の構築～

**障害福祉研究部心理実験研究室（自立支援研究室）**では、障害を持った人の自立を支え、自らが主体的に生活を送ることができるような支援の仕組みや制度を考えるために、大きく3つの観点から総合的な研究を行っています。

### 研究の3つの視点

- 1) 支援が充実するような制度・政策
- 2) どのような支援が必要かを評価する方法や、本人が必要な支援ができるだけ無理なく提供されるサービスの調整方法
- 3) 支援を行う人の教育・研修方法、自立支援に効果のある支援方法の開発

また、どのような障害を持っていても、普段生活する身近な地域において、24時間365日必要な支援を組み合わせることによって、在宅生活を続けるための仕組みである「**地域包括ケアシステム**」の構築をキーワードとして設定しています（図1）。

具体的には、①住居・②見守り・③食事・④医療・⑤介護の5つの「安心」を確保するとともに、多世代の「交流」を通じた新たなコミュニティ形成を実現するための方法について、研究を行っています。

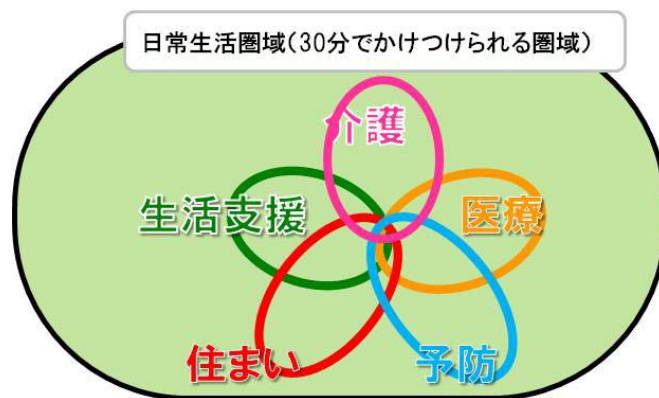


図1 地域包括ケアシステムのイメージ

研究担当者：障害福祉研究部 筒井澄栄 [tsutsui-sumiei@rehab.go.jp](mailto:tsutsui-sumiei@rehab.go.jp)  
大夙賀政昭 [otaga-masaaki@rehab.go.jp](mailto:otaga-masaaki@rehab.go.jp)